

森林の大切さ、林業の重要性を強調 林業の近代化で森林を守る意志育成



山と共に歩んで60年超の経験を生かし、林業の再生、活性化のためにITの導入などによる近代化を率先して推し進め、森林の持つ多様な機能を伝承し、世代を越えて森林を守り抜く意志を育む。

ITを導入し技術力を向上 資格取得をバックアップ

森林の大切さを知り、世代を越えて守り抜いてほしい。森林管理、林業にたずさわって60年超、「株式会社高橋林業」の代表取締役高橋正二さんはこの思いを胸に、従業員の技能向上と職場環境の近代化に取り組み、若い世代を中心に森林の持つ多様な機能の伝承にも力を注ぐ。

高橋さんは山梨県庁で30年間、林道の測量や設計に従事。退職して帰郷、森林組合の参事を2年間務めたあと49歳で「高橋林業」を起業した。日本の林業は、1980年をピークに林業従事者が1/3までに減少し続けたため、林業再生に経営資産を投入し、従業員全員にパソコンを持たせるなどIT情報技術の導入によって、先端林業機械にも対応できる技術力の向上を図り、危険、きついなどの3Kのイメージの払拭に努めた。さらに林野庁の支援事業などを活用させて

もらい、林業技士や流域森林管理士などの資格取得を全面的にバックアップし、時代が求める林業の近代化を率先して推進してきた。



森林測量

森林に関する知識を伝承 薬用樹やキノコまで解説

こうした取り組みが成果を上げるかどうかは、みんなが森林の持つ多様な機能をどのように理解するかにかかっているというのが、高橋さんの考えだ。そのため、山と共に歩んだ歳月で蓄積した膨大な知識をもとに機会があるごとに森林の大切さを伝えてきた。木材資源の供給源としての役割から、飛砂や水害、潮害の防備、なだれや落石の防止、魚が育つ環境の保護、保健、風致などの目的を持つ保安林の重要性、解熱、鎮痛、整腸など用途別に44種16品種にのぼる「薬用樹」や「特用樹」の役割、農村の「山の神行事」や「みどりの日」の意義、国内約4000種にのぼる「野生きのこ」の食用ができるのか、できないのかの見分け方、きのこに関する迷信までテーマは広範囲に及ぶ。

「日本は、世界有数の林業の先進国であり、森林国でもある。先人たちは山の恵みを生かし、絶やすことなく利用し、共生してきました。しかし、近年、私達の生活は山からどんどん離れてしまいました。今一度、山の大切さに思いをよせ、若い力で森林を守り続けていってほしいのです」

これが高橋さんの願いだ。



健全な森林ほど「野生きのこ」は、たくさん発生します。毎年95%前後の方が同じ毒きのこにより、同じ中毒を起こしている、とても残念です。



ウラベニホテイシメジ(食)



チャナメツムタケ(食)



ムキタケ(食)



ホウキタケ(食)



代表取締役 高橋正二氏

神奈川県出身。山梨県庁で林業改良指導員(Ag)や林道の測量・設計に30年間従事する。退職後、帰郷し、森林組合の参事を2年間務めて、林業経営の知識を深める。49歳で独立「高橋林業」を設立。経営基盤の強化に努めると同時に、手厚い福利厚生を整えて人材育成に注力、林業のイメージ刷新に意を注ぐ。

株式会社 高橋林業

☎ 042-689-2848
☎ 042-684-9610
📍 神奈川県相模原市緑区牧野8772
✉ takahashi-forestry@honey.ocn.ne.jp